

未来へのバトン

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校3年 船橋 舞有

二〇二四年一月一日、一六時一〇分。能登地方を震源とする最大震度七を観測する大きな地震が起こった。その後、「令和六年能登半島地震」と命名された。

私が住む石川県野々市市でも今までに感じたことのないような揺れに襲われ、物が落ちたりガラスのものが割れたりもした。また、何より何度も続く余震に精神的に辛く、とても気持ちが不安定な状態で冬休みを終えたのを今でも覚えている。

しかし私が住む加賀地方は大きな被害がなかったものの、古くから住まいし、昔ながらの建物で生活を営む能登地方、特に珠洲市・輪島市では家屋倒壊・道路陥没・液状化現象に加え、火災での家屋減失が多く出た。地震発生直後、石川県知事からの要請で各自衛隊や消防・警察など全国各地から派遣され、一斉に災害支援と情報収集が行われた。

現在もまだ復興の途中ではあるが、そこには沢山の「税金」が使われていると知ったのは恥ずかしながらつい最近だ。

税金と言えば私が思いつくものは「消費税」である。しかしそれが何に使用されているのか、なぜ徴収されているのか、今まで調べることも考えることもなかった。なぜなら疎ましいものだと感じており、マイナスなイメージでしかなかったからである。

そこで今回の能登地震での税金の使われ方に興味を持ち調べてみることにした。

まず壊れた家屋の撤去、道路の応急工事、各インフラの復旧工事など生活をするための基盤作りに税金は使われていた。そして自衛隊による水の供給、入浴支援、物質の調達、また被災状況に応じて医療費の全額及び一部免除などにもまた多くの税金が使われていることを知った。この地震で多くの方が家を失い、水道も電気も使えない状況下で、何度も続く余震に私が感じたものと比べようがないほどの不安と恐怖を被災者の方は感じていたことであろう。そんな中での大きな支援が身体的にも精神的にも支えになったことは間違いないと思う。

また能登地方には古くから伝わる伝統工芸品も多くあり、代表的なものでは輪島塗や珠洲焼、七尾ろうそく等がある。これらに関しても「石川県伝統工芸事業者債権支援事業費補助金」として事業の再開を支援している。

能登は自然にあふれ、歴史を感じることでできる素晴らしい場所である。震災前の元通りになるには何十年とかかるであろう。しかし誰かが納めてくれた税金で、その第一歩を踏み出すことができている。そして、また少しずつみんなに笑顔が戻り、幸せな生活を過ごせる日がくるのではないだろうか。

私もいずれ大人になり社会貢献をする日がきたとき、誰かの不安を取り除くことができるよう納税をしたい。そのためにも日頃から税に対して関心を持つことが重要であり、それが未来へつなぐバトンになると思う。